

9課

愛に突き動かされた働き

8月29日

安息日午後

8月22日

暗証聖句

わたしは大きな患難と心の憂いの中から、多くの涙をもってあなたがたに書きおくった。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、あなたがたに対してあふれるばかりにいただいているわたしの愛を、知ってもらうためであった。(Ⅱコリント 2:4、口語訳)

わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。(Ⅱコリント 2:4、新共同訳)

今週の聖句

Ⅱコリント 1:3～14、Ⅱコリント 2:17、Ⅱコリント 4:2、Ⅰコリント 16:5～7、
Ⅱコリント 7:5～13、Ⅱコリント 2:5～17

今週のテーマ

使徒パウロは、いつも楽な生活を送っていたわけではありません。投獄や命の危険にさらされるような状況に加えて、彼はこうも書いています。「ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食えずにおり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります」〔口語訳「ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂ったこともある。幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある」〕(Ⅱコリ 11:24～28)。

コリントの信徒への手紙(コリント人への手紙)に見られるのは、彼がこの教会に対して抱いていた「心配事」[口語訳「心配ごと」]の一部です。しかし、そのような中でも、彼らに対するパウロの愛は、私たちに対するキリストの愛のように、決して絶えることがありませんでした。実のところ、パウロが教会をこのように愛することを学んだのは、イエスご自身からでした(In fact, it was from Jesus that Paul learned to love the churches in a way that reflects the love that Jesus has for us. 実際、パウロが、イエスが私たちに対して抱いておられる愛を反映するような形で、教会を愛することを学んだのは、イエスからだったのです。)(Ⅱコリ 5:14、Ⅰコリ 11:1 参照)。

60

Ⅱコリ 11:24~28 (新共同訳)

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。

11:25 鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したことが三度。一昼夜海上に漂ったこともありました。

11:26 しばしば旅をし、川の難、盗賊の難、同胞からの難、異邦人からの難、町での難、荒れ野での難、海上の難、偽の兄弟たちからの難に遭い、

11:27 苦勞し、骨折って、しばしば眠らずに過ごし、飢え渴き、しばしば食わずにあり、寒さに凍え、裸でいたこともありました。

11:28 このほかにもまだあるが、その上に、日々わたしに迫るやっかい事、あらゆる教会についての心配事があります。

Ⅱコリ 5:14 (新共同訳)

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです。わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだことになりました。

Ⅰコリ 11:1 (新共同訳)

11:1 わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

Ⅱコリ 11:24~28 (口語訳)

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂ったこともある。

11:26 幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。

11:28 なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある。

Ⅱコリ 5:14 (口語訳)

5:14 なぜなら、キリストの愛がわたしたちに強く迫っているからである。わたしたちはこう考えている。ひとりの人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである。

Ⅰコリ 11:1 (口語訳)

11:1 わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい。

日曜日 8月23日 感謝

問1 Ⅱコリント1:3~7を読んでください。ここでパウロが感謝の気持ちをあらわしている理由は何でしょうか。

パウロの感謝の気持ちは、苦しんでいる人々に神が与えてくださる慰めに焦点を合わせています。原文のこの箇所では、「慰める」という動詞(パラカレオー)と「慰め」という名詞(パラクレシス)が一緒に10回出てきます。これは、コリントの信徒への手紙Ⅱ(コリント人への第二の手紙)におけるこれらの言葉の出現回数(29回)の3分の1に相当します。神は、「慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神、……あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださる」[口語訳「あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さ(る)」](Ⅱコリ 1:3、4)お方として描かれています。

神から受ける慰めは、自分だけのものとしてとどめておくべきではありません(同1:4、5)。苦しむ心が神の慰めを受け入れたとき、同じように苦しむ人々に効果的に慰めを与えることができます。

パウロが他者を慰めることができたのは、彼自身が苦しみの中で神から慰めを受けたからでした。「私たちが苦難に遭うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。また、私たちが慰められるなら、それはあなたがたの慰めのためです」(同 1:6、聖書協会共同訳、強調付加)[新共同訳「わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになる」]、口語訳「わたしたちが患難に会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためであり、慰めを受けるなら、それはあなたがたの慰めのためである(る)」]。これこそが愛です！

問2 Ⅱコリント 1:8～11 でパウロは、どんなことに感謝をあらわしていますか。

パウロは、自分と仲間の働き人が「耐えられないほどひど(い)」[口語訳「極度に、耐えられないほど」](Ⅱコリ 1:8)苦難に見舞われ、自分たちの終わりが来たのではないかと恐れたと述べています。彼らは一瞬、復活だけが唯一の希望だと思いましたが、神が彼らを救ってくださり、状況は一変しました(同 1:10)。死の恐怖を味わったことで(同 1:8)、彼らは、神が再び自分たちを救ってくださるという揺るぎない希望を抱くようになったのです(同 1:10)。過去における神の勝利は、神が将来も同じようにしてくださるという確信を与えてくれます。神は苦難を用いて、神に信頼することを教えてください。苦難は、少なくともそれを神に近づく機会として受け入れる限りにおいて、霊的な成長へと私たちを導くのです。さらにパウロの感謝は、執り成しの祈りの力と、神の救いによって得られる感謝の気持ちをも示しています(同 1:11)。

【参考】英語テキストにある全文

What have you found helpful in dealing with the suffering that, one way or another, we all face?

私たち誰もが何らかの形で直面する苦しみに向き合う上で、何が役に立ったと思いますか。

Ⅱコリ 1:3～11 (新共同訳)

1:3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。

1:4 神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。

1:5 キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。

1:6 わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができるのです。

1:7 あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。

1:8 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい。わたしたちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。

1:9 わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。

1:10 神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これから救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。

1:11 あなたがたも祈りで援助してください。そうすれば、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげられるようになるのです。

Ⅱコリ 1:3～11 (口語訳)

1:3 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神、あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。

1:4 神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。

1:5 それは、キリストの苦難がわたしたちに満ちあふれているように、わたしたちの受ける慰めもまた、キリストによって満ちあふれているからである。

1:6 わたしたちが患難に会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためであり、慰めを受けるなら、それはあなたがたの慰めのためであって、その慰めは、わたしたちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである。

1:7 だから、あなたがたに対していただいているわたしたちの望みは、動くことがない。あなたがたが、わたしたちと共に苦難にあずかっているように、慰めにも共にあずかっていることを知っているからである。

1:8 兄弟たちよ。わたしたちがアジアで会った患難を、知らずにいてもらいたくない。わたしたちは極度に、耐えられないほど圧迫されて、生きる望みをさえ失ってしまい、

1:9 心のうちで死を覚悟し、自分自身を頼みとしないで、死人をよみがえらせて下さる神を頼みとするに至った。

1:10 神はこのような死の危険から、わたしたちを救い出して下さった、また救い出して下さるであろう。わたしたちは、神が今後も救い出して下さることを望んでいる。

1:11 そして、あなたがたもまた祈をもつて、ともどもに、わたしたちを助けてくれるであろう。これは多くの人々の願いによりわたしたちに賜わった恵みについて、多くの人が感謝をささげるようになる

るためである。

【参考】Ⅱコリ 1:6 (聖書協会共同訳)

1:6 私たちが苦難に遭うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。また、私たちが慰められるなら、それはあなたがたの慰めのためであり、この慰めは、私たちの苦しみと同じ苦しみに耐える力となるのです。

Ⅱコリ 1:6 (新共同訳)

1:6 わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができるのです。

Ⅱコリ 1:6 (口語訳)

1:6 わたしたちが患難に会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためであり、慰めを受けるなら、それはあなたがたの慰めのためであって、その慰めは、わたしたちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである。

月曜日 8月24日 純真と誠実

きのうの研究では、コリントの信徒に対するパウロの愛は、彼が苦難の中で神から慰めを受けたように、苦難の中にある彼らを慰めたことの中に明らかにされたことを学びました(Ⅱコリ 1:1~11)。きょうの研究では、コリントの信徒に対するパウロの愛が、彼と仲間の働き人が彼らに示した誠実さを通して明らかにされたことを見ていきます。

問3 Ⅱコリント 2:17、4:2 を踏まえて、同 1:12~14 を読んでください。パウロの誠実さは、コリントの信徒に対する彼の愛をいかにあらわしているでしょうか。

Ⅱコリント1:12~14は、パウロがこの手紙の残りの部分で展開する論点の導入部分です。コリントには、パウロの誠実さと使徒職に疑問を抱いている信徒がいました。彼らは、パウロが決断力のない優柔不断な性格の持ち主で、使徒としての働きを担うにふさわしくないと考えたのです。これに対してパウロは、自分と同僚たちが彼らに対して最大限の誠実さをもって接してきたことを強調しています。

パウロと同僚たちの行動は、「純真」と「誠実」(口語訳「神聖」と「真実」)(Ⅱコリ 1:12)という二つの言葉で表現されています。「純真」(口語訳「神聖」)という言葉は、ギリシア語の「ハプロテース」の訳語で、ここでは、言動における個人的な誠実さをあらわすために用いられています。つまり、動機の純粋さをあらわしています(エフェ[エペ] 6:5、コロ 3:22)。同様に、「誠実」(口語訳「真実」)(ギリシア語の「エイクリネイア」の訳語)という言葉も、誠実さと動機の純粋さを示しています。

コリントの信徒は、パウロの意図の明確さを疑うべきではありませんでした。パウロは、自分の純真と誠実が神に由来するものであることを明らかにしています。この考えは、「神から受けた純真と誠実」(口語訳「神の神聖と真実」)(Ⅱコリ 1:12、強調付加)という表現によくあらわれています。同じ節でパウロは、これらの奉仕の資質は、「神の恵みの下に」(口語訳「神の恵みによって」)私たちに与えられているとも

述べています。

パウロの敵対者たちは、これまでの文書のやり取りの中で、彼の言葉を誤解していたようです(同 1:13、14)。パウロは、自分の意図が明確で理解できるものだったと断言しています。そして、自分の言葉、意図、行動の正しさが「主イエスの来られる日に」〔口語訳「主イエスの日には」〕(同 1:14)明らかになると確信していました。

あなたが誠実な動機や意図で行動したにもかかわらず、疑われた経験がありますか。私たちは他者の動機を疑うとき、どれほど慎重さが必要でしょうか。

62

Ⅱコリ 1:1～14 (新共同訳)

1:1 神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと、兄弟テモテから、コリントにある神の教会と、アカイア州の全地方に住むすべての聖なる者たちへ。

1:2 わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

1:3 わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。

1:4 神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。

1:5 キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。

1:6 わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。また、わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの苦しみと同じ苦しみに耐えることができますのです。

1:7 あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。

Ⅱコリ 1:1～14 (口語訳)

1:1 神の御旨によりキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟テモテとから、コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ。

1:2 わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

1:3 ほむべきかな、わたしたちの主イエス・キリストの父なる神、あわれみ深き父、慰めに満ちたる神。

1:4 神は、いかなる患難の中にいる時でもわたしたちを慰めて下さり、また、わたしたち自身も、神に慰めていただくその慰めをもって、あらゆる患難の中にある人々を慰めることができるようにして下さるのである。

1:5 それは、キリストの苦難がわたしたちに満ちあふれているように、わたしたちの受ける慰めもまた、キリストによって満ちあふれているからである。

1:6 わたしたちが患難に会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためであり、慰めを受けるなら、それはあなたがたの慰めのためであって、その慰めは、わたしたちが受けているのと同じ苦難に耐えさせる力となるのである。

1:7 だから、あなたがたに対していただいているわたしたちの望みは、動くことがない。あなたがたが、わたしたちと共に苦難にあずかっているように、慰めにも共にあずかっていることを知っているからである。

1:8 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい。わたしたちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。

1:9 わたしたちとしては死の宣告を受けた思いでした。それで、自分を頼りにすることなく、死者を復活させてくださる神を頼りにするようになりました。

1:10 神は、これほど大きな死の危険からわたしたちを救ってくださったし、また救ってくださることでしょう。これからも救ってくださるにちがいないと、わたしたちは神に希望をかけています。

1:11 あなたがたも祈りで援助してください。そうすれば、多くの人のお陰でわたしたちに与えられた恵みについて、多くの人々がわたしたちのために感謝をささげてくれるようになるのです。

1:12 わたしたちは世の中で、とりわけあなたがたに対して、人間の知恵によってではなく、神から受けた純真と誠実によって、神の恵みの下に行動してきました。このことは、良心も証しするところで、わたしたちの誇りです。

1:13-14 わたしたちは、あなたがたが読み、また理解できること以外何も書いていません。あなたがたは、わたしたちをある程度理解しているのですから、わたしたちの主イエスの来られる日に、わたしたちにとってもあなたがたが誇りであるように、あなたがたにとってもわたしたちが誇りであることを、十分に理解してもらいたい。

Ⅱコリ 2:17 (新共同訳)

2:17 わたしたちは、多くの人々のように神の言葉を売り物にせず、誠実に、また神に属する者として、神の御前でキリストに結ばれて語っています。

Ⅱコリ 4:2 (新共同訳)

4:2 かえって、卑劣な隠れた行いを捨て、悪賢く歩まず、神の言葉を曲げず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます。

1:8 兄弟たちよ。わたしたちがアジアで会った患難を、知らずにいてもらいたくない。わたしたちは極度に、耐えられないほど圧迫されて、生きる望みをさえ失ってしまい、

1:9 心のうちで死を覚悟し、自分自身を頼みとしないで、死人をよみがえらせて下さる神を頼みとするに至った。

1:10 神はこのような死の危険から、わたしたちを救い出して下さった、また救い出して下さるであろう。わたしたちは、神が今後も救い出して下さることを望んでいる。

1:11 そして、あなたがたもまた祈をもつて、ともどもに、わたしたちを助けてくれるであろう。これは多くの人々の願いによりわたしたちに賜わった恵みについて、多くの人が感謝をささげるようになるためである。

11:12 さて、わたしたちがこの世で、ことにあなたがたに対し、人間の知恵によってではなく神の恵みによって、神の神聖と真実によって行動してきたことは、実にわたしたちの誇りであって、良心のあかしするところである。

11:13 わたしたちが書いていることは、あなたがたが読んで理解できないことではない。それを完全に理解してくれるように、わたしは希望する。

11:14 すでにある程度わたしたちを理解してくれているとおり、わたしたちの主イエスの日には、あなたがたがわたしたちの誇りであるように、わたしたちもあなたがたの誇りなのである。

Ⅱコリ 2:17 (口語訳)

2:17 しかし、わたしたちは、多くの人々のように神の言を売物にせず、真心をこめて、神につかわされた者として神のみまえて、キリストにあって語るのである。

Ⅱコリ 4:2 (口語訳)

4:2 恥ずべき隠れたことを捨て去り、悪巧みによって歩かず、神の言を曲げず、真理を明らかにし、神のみまえに、すべての人の良心に自分を推薦するのである。

エフェ 6:5 (新共同訳)

6:5 奴隷たち、キリストに従うように、恐れおののき、真心を込めて、肉による主人に従いなさい。

コロ 3:22 (新共同訳)

3:22 奴隷たち、どんなことについても肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとしてうわべだけで仕えず、主を畏れつつ、真心を込めて従いなさい。

エペ 6:5 (口語訳)

6:5 僕たる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。

コロ 3:22 (口語訳)

3:22 僕たる者よ、何事についても、肉による主人に従いなさい。人にへつらおうとして、目先だけの勤めをするのではなく、真心をこめて主を恐れつつ、従いなさい。

火曜日

8月25日

愛のために計画を変える

コリントには、パウロの意図と愛を疑う信徒がいたことに触れました。きょうの研究では、疑われた理由の一つ、すなわち彼が旅行計画を変更したことについて詳しく見ます(Ⅱコリ 1:15~2:4)。

問4 I コリント 16:5~7 を読んでください。パウロの当初の旅行計画は、どのようなものでしたか。

パウロは以前にも、コリントを訪れたことがありました。I コリント16:5、6によると、彼はコリントに戻る途中にマケドニア州を通り、おそらく冬の間はコリントに滞在する予定でした。パウロはエルサレムの貧しい信徒のためにマケドニア州だけではなくアカイア、ガラテヤ、アジア州でも集めた献金を携えて、コリントからユダヤに行くつもりだったのです。しかし、テモテがコリントから持ち帰った悪い報告のために、その計画を変更しました(I コリ 4:17、16:10、Ⅱコリ 1:1)。

パウロはエフェソ(エペソ)からコリントに直行し、そこでテモテから報告された問題に対処しようと考えました。新しい行程は、エフェソ(エペソ)、コリント、マケドニア州、コリント、ユダヤ(Ⅱコリ 1:15、16)となるはずでした。彼はエフェソ(エペソ)からコリントに行きましたが、すぐにエフェソ(エペソ)に戻ります。彼の計画は変わったのです。この時の訪問がうまくいかなかったので、彼は予定していたように(少なくともすぐには)、コリントに戻りませんでした。そこで彼はエフェソに戻り、代わりに手紙を書きました。もう一度コリントを訪問して事態を悪化させる危険を冒すよりも、手紙を送ったほうがよいと考えたのです(同 2:1、3)。

先の訪問におけるパウロの意図は誤解されました。コリントの信徒の中には、彼は信頼できない、愛が足りないと言う人もいました(同 1:17)。こうした非難に答えて、彼はコリントの信徒の目をキリストの福音に向けさせました。神がキリストを通してコリントの信徒への約束を忠実に果たされたように(同 1:18~22)、パウロは最善の機会にコリントの信徒を訪ねるという自分の意図に忠実でした。

「神の約束は、ことごとくこの方において『然り(しかり)』となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方を通して『アーメン』と唱えます」(同 1:20)。このように、パウロの返答は、彼らが言うように、状況に応じて「然り(しかり)」と「否」が入り混じったものではなく、キリストにおける神の御業が「『然り』だけ」[口語訳「しかり」](同 1:19)であるように、「『然り』だけ」[口語訳「しかり」]でした。

ですから、パウロがコリントの信徒を再訪する代わりに手紙を書いたのは、彼らへの真摯な愛のゆえであり、その逆ではなかったのです(同 2:4)。

※英語テキストには続きがあります。

Another visit right after the painful visit would bring them further pain, not the joy he intended to cause with his presence (2 Cor. 1:24, 2 Cor. 2:3). How easily his good intentions were misinterpreted.

つらい訪問の直後に再び訪ねていけば、彼らにさらなる苦痛をもたらすことになり、彼が自分の訪問によって与えようとした喜びとは程遠い結果になってしまうだろう(Ⅱコリント 1:24、Ⅱコリント 2:3)。彼の善意が、いかに簡単に誤解されてしまったことか。

63

Ⅱコリ 1:15～2:4 (新共同訳)

1:15 このような確信に支えられて、わたしは、あなたがたがもう一度恵みを受けるようにと、まずあなたがたのところへ行く計画を立てました。

1:16 そして、そちらを経由してマケドニア州に赴き、マケドニア州から再びそちらに戻って、ユダヤへ送り出してもらおうと考えたのでした。

1:17 このような計画を立てたのは、軽はずみだったでしょうか。それとも、わたしが計画するのは、人間的な考えによることで、わたしにとって「然り、然り」が同時に「否、否」となるのでしょうか。

1:18 神は真実な方です。だから、あなたがたに向けたわたしたちの言葉は、「然り」であると同時に「否」であるというものではありません。

1:19 わたしたち、つまり、わたしとシルワノとテモテが、あなたがたの間で宣べ伝えた神の子イエス・キリストは、「然り」と同時に「否」となったような方ではありません。この方においては「然り」だけが実現したのです。

1:20 神の約束は、ことごとくこの方において「然り」となったからです。それで、わたしたちは神をたたえるため、この方

Ⅱコリ 1:15～2:4 (口語訳)

1:15 この確信をもって、わたしたちはもう一度恵みを得させたいので、まずあなたがたの所に行き、

1:16 それからそちらを通してマケドニアにおもむき、そして再びマケドニアからあなたがたの所に帰り、あなたがたの見送りを受けてユダヤに行く計画を立てたのである。

1:17 この計画を立てたのは、軽率なことであつたであろうか。それとも、自分の計画を肉の思いによって計画したため、わたしの「しかり、しかり」が同時に「否、否」であつたのだろうか。

1:18 神の真実にかけて言うが、あなたがたに対するわたしの言葉は、「しかり」と同時に、「否」というようなものではない。

1:19 なぜなら、わたしたち、すなわち、わたしとシルワノとテモテとが、あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり」となると同時に「否」となったのではない。そうではなく、「しかり」がイエスにおいて実現されたのである。

1:20 なぜなら、神の約束はことごとく、彼において「しかり」となったからである。だから、わたしたちは、彼によって

を通して「アーメン」と唱えます。

1:21 わたしたちとあなたがたとをキリストに固く結び付け、わたしたちに油を注いでくださったのは、神です。

1:22 神はまた、わたしたちに証印を押して、保証としてわたしたちの心に“霊”を与えてくださいました。

1:23 神を証人に立てて、命にかけて誓いますが、わたしがまだコリントに行かずにいるのは、あなたがたへの思いやりからです。

1:24 わたしたちは、あなたがたの信仰を支配するつもりはなく、むしろ、あなたがたの喜びのために協力する者です。あなたがたは信仰に基づいてしっかり立っているからです。

2:1 そこでわたしは、そちらに行くことで再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。

2:2 もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませる人以外のいっただれが、わたしを喜ばせてくれるでしょう。

2:3 あのようなことを書いたのは、そちらに行き、喜ばせてもらえるはずの人たちから悲しい思いをさせられなくなかったからです。わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。

2:4 わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。

I コリ 16:5~7 (新共同訳)

16:5 わたしは、マケドニア経由でそちらへ行きます。マケドニア州を通りますから、

16:6 たぶんあなたがたのところに滞在し、場合によっては、冬を越すことになるかもしれません。そうなれば、次にどこに出かけるにしろ、あなたがたから送り出してもらえるでしょう。

「アーメン」と唱えて、神に栄光を帰するのである。

1:21 あなたがたと共にわたしたちを、キリストのうちに堅くささえ、油をそいで下さったのは、神である。

1:22 神はまた、わたしたちに証印をおし、その保証として、わたしたちの心に御霊を賜ったのである。

1:23 わたしは自分の魂をかけ、神を証人に呼び求めているが、わたしがコリントに行かないでいるのは、あなたがたに対して寛大でありたいためである。

1:24 わたしたちは、あなたがたの信仰を支配する者ではなく、あなたがたの喜びのために共に働いている者にすぎない。あなたがたは、信仰に堅く立っているからである。

2:1 そこでわたしは、あなたがたの所に再び悲しみをもって行くことはすまいと、決心したのである。

2:2 もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませているその人以外に、だれがわたしを喜ばせてくれるのか。

2:3 このような事を書いたのは、わたしが行く時、わたしを喜ばせてくれるはずの人々から、悲しい思いをさせられたくないためである。わたし自身の喜びはあなたがた全体の喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからである。

2:4 わたしは大きな患難と心の憂いの中から、多くの涙をもってあなたがたに書きおくれた。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、あなたがたに対してあふれるばかりにいただいているわたしの愛を、知ってもらうためであった。

I コリ 16:5~7 (口語訳)

16:5 わたしは、マケドニアを通過してから、あなたがたのところに行くことになる。マケドニアは通過するだけだが、

16:6 あなたがたの所では、たぶん滞在するようになり、あるいは冬を過ごすかも知れない。そうなれば、わたしがどこへ行くにしても、あなたがたに送ってもらえるだろう。

16:7 わたしは、今、旅のついでにあなたがたに会うようなことはしたくない。主が許してくだされば、しばらくあなたがたのところに滞在したいと思っています。

I コリ 4:17 (新共同訳)

4:17 テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、至るところのすべての教会でわたしが教えているとおりに、キリスト・イエスに結ばれたわたしの生き方を、あなたがたに思い起こさせることでしょう。

I コリ 16:10 (新共同訳)

16:10 テモテがそちらに着いたら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようお世話ください。わたしと同様、彼は主の仕事をしていますのです。

II コリ 1:1 (新共同訳)

1:1 神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロと、兄弟テモテから、コリントにある神の教会と、アカイア州の全地方に住むすべての聖なる者たちへ。

16:7 わたしは今、あなたがたに旅のついでに会うことは好まない。もし主のお許しがあれば、しばらくあなたがたの所に滞在したいと望んでいる。

I コリ 4:17 (口語訳)

4:17 このことのために、わたしは主にあって愛する忠実なわたしの子テモテを、あなたがたの所につかわした。彼は、キリスト・イエスにおけるわたしの生活のしかたを、わたしが至る所の教会で教えているとおりに、あなたがたに思い起こさせてくれるであろう。

I コリ 16:10 (口語訳)

16:10 もしテモテが着いたら、あなたがたの所で不安なしに過ごせるようにしてあげてほしい。彼はわたしと同様に、主のご用にあたっているのだから。

II コリ 1:1 (口語訳)

1:1 神の御旨によりキリスト・イエスの使徒となったパウロと、兄弟テモテとから、コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ。

水曜日 8月26日 赦しと愛の再確認

パウロはエフェソ(エペソ)に戻ったあと、コリントの信徒を再訪する代わりに、「厳しい手紙」として知られる手紙を送りました(IIコリ 2:3、4、7:8、12 参照)。

問5 I コリント 7:5～13 を読んでください。パウロが彼らに書き送った手紙は、どんな結果をもたらしましたか。その結果に対して、パウロはどんな反応をしましたか。

その後、パウロとテトスはマケドニア州で会い、そこでパウロはテトスから、自分の厳しい言葉が良い結果を生んだというすばらしい知らせを聞きました。その知らせは、使徒パウロに大きな喜びをもたらしました。以前はコリントの一部の信徒がパウロに反対の立場を取っていましたが、今や教会は彼の味方となりました。指導者を支えることは、どれほど大切なことでしょうか。教会員として、私たちは彼らの働きを今よりもずっと容易にすることができます。

問6 II コリント 2:5～11 を読んでください。ここでの中心的な考えは何ですか。

この箇所は、教会の規律に関する事例を扱っています。ここでの加害者が、Ⅰコリント5:1～5に登場する近親相姦の男なのか、それとも教会内のほかの信者に影響を与え、パウロは旅行計画を決める際に一貫性がなく、配慮に欠けていると非難させた人物なのか、聖書学者たちの間で議論があります。文脈から判断すると、後者の可能性が高いようです。いずれにせよ、この箇所の最も重要な教えは、教会が罪を犯した人をいかに扱うべきかということです。

この箇所は、教会の規律の目的が、赦しと、罪を犯した人に対する愛の再確認を通しての「回復」であることを教えています(Ⅱコリ 2:6～8,10)。また、教会の規律は、痛みを伴うことがあるものの、必要であることも示唆しています。どれほど善意に基づき、「恵み」を重視したいと願っていても、あからさまな罪や公然たる罪に立ち向かったり、対処したりしない教会があるかもしれません。一方で、非常に厳格で、赦しがなく、厳しい教会もあります。罪は愛をもって対処されるべきです。だからパウロは、罪を犯した人への愛を改めて示すよう、教会に勧告することができました(同 2:8)。なぜなら、彼自身が教会を愛していたからです！(同 2:4)。

【参考】英語テキストにある英文

The church in Corinth could love the offender (2 Cor. 2:8) because it was itself the object of God's love through Paul's love. What does this teach us about love?

コリントの教会が、その過ちを犯した者を愛することができた(Ⅱコリント2:8)のは、パウロの愛を通して、教会自体が神の愛の対象となっていたからでした。

64

Ⅱコリ 2:3～11 (新共同訳)

2:3 あのようなことを書いたのは、そちらに行き、喜ばせてもらえるはずの人たちから悲しい思いをさせられたくなかったからです。わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。

2:4 わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。

2:5 悲しみの原因となった人がいれば、その人はわたしを悲しませたのではなく、大げさな表現は控えますが、あなたがたすべてをある程度悲しませたのです。

2:6 その人には、多数の者から受けたあの罰で十分です。

Ⅱコリ 2:3～11 (口語訳)

2:3 このような事を書いたのは、わたしが行く時、わたしを喜ばせてくれるはずの人々から、悲しい思いをさせられたくないためである。わたし自身の喜びはあなたがた全体の喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからである。

2:4 わたしは大きな患難と心の憂いの中から、多くの涙をもってあなたがたに書きおくった。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、あなたがたに対してあふれるばかりにいただいているわたしの愛を、知ってもらうためであった。

2:5 しかし、もしだれかが人を悲しませたとすれば、それはわたしを悲しませたのではなく、控え目に言うが、ある程度、あなたがた一同を悲しませたのである。

2:6 その人にとっては、多数の者から受けたあの処罰でもう十分なのだから、

2:7 むしろ、あなたがたは、その人が悲しみに打ちのめされてしまわないように、赦して、力づけるべきです。

2:8 そこで、ぜひともその人を愛するようになしてください。

2:9 わたしが前に手紙を書いたのも、あなたがたが万事について従順であるかどうかを試すためでした。

2:10 あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何かのことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。

2:11 わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです。

Ⅱコリ 7:5～13 (新共同訳)

7:5 マケドニア州に着いたとき、わたしたちの身には全く安らぎがなく、ことごとく苦しんでいました。外には戦い、内には恐れがあったのです。

7:6 しかし、気落ちした者を力づけてくださる神は、テトスの到着によってわたしたちを慰めてくださいました。

7:7 テトスが来てくれたことによってだけではなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、そうして下さったのです。つまり、あなたがたがわたしを慕い、わたしのために嘆き悲しみ、わたしに対して熱心であることを彼が伝えてくれたので、わたしはいっそう喜んだのです。

7:8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません。確かに、あの手紙が一時にもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています。たとえ後悔したとしても、

7:9 今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたが悲しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました。

2:7 あなたがたはむしろ彼をゆるし、また慰めてやるべきである。そうしないと、その人はますます深い悲しみに沈むかも知れない。

2:8 そこでわたしは、彼に対して愛を示すように、あなたがたに勧める。

2:9 わたしが書きおくれたのも、あなたがたがすべての事について従順であるかどうかを、ためすためにほかならなかった。

2:10 もしあなたがたが、何かのことにについて人をゆるすなら、わたしもまたゆるそう。そして、もしわたしが何かのことでゆるしたとすれば、それは、あなたがたのためにキリストのみまえてゆるしたのである。

2:11 そうするのは、サタンに欺かれることのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。

Ⅱコリ 7:5～13 (口語訳)

7:5 さて、マケドニアに着いたとき、わたしたちの身に少しの休みもなく、さまざまの患難に会い、外には戦い、内には恐れがあった。

7:6 しかるに、うちしおれている者を慰める神は、テトスの到来によって、わたしたちを慰めて下さった。

7:7 ただ彼の到来によるばかりではなく、彼があなたがたから受けたその慰めをもって、慰めて下さった。すなわち、あなたがたがわたしを慕っていること、嘆いていること、またわたしに対して熱心であることを知らせてくれたので、わたしの喜びはいよいよ増し加わったのである。

7:8 そこで、たとい、あの手紙であなたがたを悲しませたとしても、わたしはそれを悔いていない。あの手紙がしばらくの間ではあるが、あなたがたを悲しませたのを見て悔いたとしても、

7:9 今は喜んでい。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって、わたしたちからはなんの損害も受けなかったのである。

7:10 神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。

7:11 神の御心に適ったこの悲しみが、あなたがたにどれほどの熱心、弁明、憤り、恐れ、あこがれ、熱意、懲らしめをもたらしたことでしょう。例の事件に関しては、あなたがたは自分がすべての点で潔白であることを証明しました。

7:12 ですから、あなたがたに手紙を送ったのは、不義を行った者のためでも、その被害者のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱心を、神の御前であなたがたに明らかにするためでした。

7:13 こういうわけでわたしたちは慰められたのです。この慰めに加えて、テトスの喜びさまを見て、わたしたちはいっそう喜びました。彼の心があなたがた一同のお陰で元気づけられたからです。

I コリ 5:1~5 (新共同訳)

5:1 現に聞くところによると、あなたがたの間にみだらな行いがあり、しかもそれは、異邦人の間にもないほどのみだらな行いで、ある人が父の妻をわがものとしているとのことです。

5:2 それにもかかわらず、あなたがたは高ぶっているのか。むしろ悲しんで、こんなことをする者を自分たちの間から除外すべきではなかったのですか。

5:3 わたしは体では離れていても霊ではそこにいて、現に居合わせた者のように、そんなことをした者を既に裁いてしまっています。

5:4 つまり、わたしたちの主イエスの名により、わたしたちの主イエスの力をもって、あなたがたとわたしの霊が集まり、

5:5 このような者を、その肉が滅ぼされるようにサタンに引き渡したのです。それは主の日に彼の霊が救われるためです。

7:10 神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。

7:11 見よ、神のみこころに添うたその悲しみが、どんなにか熱情をあなたがたに起させたことか。また、弁明、義憤、恐れ、愛慕、熱意、それから処罰に至らせたことか。あなたがたはあの問題については、すべての点において潔白であることを証明したのである。

7:12 だから、わたしがあなたがたに書きおくったのは、不義をした人のためでも、不義を受けた人のためでもなく、わたしたちに対するあなたがたの熱情が、神の前にあなたがたの間で明らかになるためである。

7:13 こういうわけで、わたしたちは慰められたのである。これらの慰めの上にテトスの喜びが加わって、わたしたちはなおいっそう喜んだ。彼があなたがた一同によって安心させられたからである。

I コリ 5:1~5 (口語訳)

5:1 現に聞くところによると、あなたがたの間に不品行な者があり、しかもその不品行は、異邦人の間にもないほどのもので、ある人がその父の妻と一緒に住んでいるということである。

5:2 それなのに、なお、あなたがたは高ぶっている。むしろ、そんな行いをしている者が、あなたがたの中から除かれねばならないことを思って、悲しむべきではないか。

5:3 しかし、わたし自身としては、からだは離れていても、霊では一緒にいて、その場に在る者のように、そんな行いをした者を、すでにさばいてしまっている。

5:4 すなわち、主イエスの名によって、あなたがたもわたしの霊も共に、わたしたちの主イエスの權威のもとに集まって、

5:5 彼の肉が滅ぼされても、その霊が主のさばきの日に救われるように、彼をサタンに引き渡してしまったのである。

問7 IIコリント 2:12、13 を読んでください。パウロは「厳しい手紙」をコリントの信徒に書き送ったあと、どこへ行き、そこで何をしましたか。

パウロはテトスを待っている間、不安を感じていました(IIコリ 7:5、6)。しかし、そのような不安があったにもかかわらず、彼はイエスについて語ることをやめませんでした(同 2:12)。それほどイエスを深く愛していたのです。その時点で、パウロはまだ手紙の結果を知らず、テトスに会って、コリントの信徒の反応を聞きたいと切望していました。

トロアスでのパウロの働きは成功しましたが、「長く滞在することができなかった。『諸教会の心配ごと』、特にコリントの教会のことが彼の心に重くのしかかっていた。彼は、トロアスでテトスに会って、自分がコリントの兄弟たちに送った勧告と譴責の言葉を、彼らがどのように受けたかを知りたいと思ったけれども、彼の願いは果たされなかった。彼は、『兄弟テトスに会えなかったので、わたしは気が気でな』かったと、この経験について書いた。そこで、彼は、トロアスを離れて、マケドニアへ行き、ピリピにおいて、テモテに会ったのである」(『希望への光』1478 ページ、『患難から栄光へ』第31章)。

問8 IIコリント 2:14～17 を読んでください。マケドニア州でテトスに会い、コリントの信徒の好意的な反応を聞いた時、パウロはどんな反応をしましたか。

パウロは喜びにあふれながら、「神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連らせ……てください」(口語訳「神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行……(っ)て下さる」)(IIコリ 2:14)と断言しています。なんとすばらしい言葉でしょう！キリストの臨在に満ちた心は、「至るところに、キリストを知るという知識の香りを漂わせ(る)」(口語訳「キリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さる」)(同2:14)のです。

パウロはキリストにあって喜びます。痛みを伴う手紙が、意図した収穫の実を結んだからです(同 7:5～9)。これは大きな勝利でした。一方、IIコリント2:17でパウロは、キリストの使徒としての誠実さを改めて強調しています(同 2:17、1:12)。この箇所によれば、キリストの忠実な僕と偽の働き人の違いは、後者が私利私欲のために福音を売り歩くのに対して、前者はキリストに対する心からの愛をもって神の言葉を宣べ伝える点にあります。

【参考】英語テキストにある英文

What motivates you in all that you do, especially when you do it in the name of Jesus?

あなたが取り組むすべての事柄において、とりわけイエスの御名によってそれを行うとき、何があなたの原動力となっていますか。

65

Ⅱコリ 2:12～17 (新共同訳)

2:12 わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていました

が、
2:13 兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

2:14 神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連ならせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます。

2:15 救いの道をたどる者にとっても、滅びの道をたどる者にとっても、わたしたちはキリストによって神に献げられる良い香りです。

2:16 滅びる者には死から死に至らせる香りであり、救われる者には命から命に至らせる香りです。このような務めにだれがふさわしいでしょうか。

2:17 わたしたちは、多くの人々のように神の言葉を売り物にせず、誠実に、また神に属する者として、神の御前でキリストに結ばれて語っています。

Ⅱコリ 7:5～9 (新共同訳)

7:5 マケドニア州に着いたとき、わたしたちの身には全く安らぎがなく、ことごとく苦しんでいました。外には戦い、内には恐れがあったのです。

7:6 しかし、気落ちした者を力づけてくださる神は、テトスの到着によってわたしたちを慰めてくださいました。

7:7 テトスが来てくれたことによってだけではなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、そうしてくださったのです。つまり、あなたがたがわたしを慕い、わたしのために嘆き悲しみ、わたしに対して熱心であることを彼が伝えてくれたので、わたしはいっそう喜んだのです。

Ⅱコリ 2:12～17 (口語訳)

2:12 さて、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、わたしのために主の門が開かれたにもかかわらず、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、わたしは気が気でなく、人々に別れて、マケドニアに出かけて行った。

2:14 しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。

2:15 わたしたちは、救われる者にとっても滅びる者にとっても、神に対するキリストのかおりである。

2:16 後者にとっては、死から死に至らせるかおりであり、前者にとっては、いのちからいのちに至らせるかおりである。いったい、このような任務に、だれが耐え得ようか。

2:17 しかし、わたしたちは、多くの人のように神の言を売物にせず、真心をこめて、神につかわされた者として神のみまえて、キリストにあって語るのである。

Ⅱコリ 7:5～9 (口語訳)

7:5 さて、マケドニアに着いたとき、わたしたちの身に少しの休みもなく、さまざまの患難に会い、外には戦い、内には恐れがあった。

7:6 しかるに、うちしおれている者を慰める神は、テトスの到来によって、わたしたちを慰めて下さった。

7:7 ただ彼の到来によるばかりではなく、彼があなたがたから受けたその慰めをもって、慰めて下さった。すなわち、あなたがたがわたしを慕っていること、嘆いていること、またわたしに対して熱心であることを知らせてくれたので、わたしの喜びはいよいよ増し加わったのである。

7:8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたとしても、わたしは後悔しません。確かに、あの手紙が一時にもせよ、あなたがたを悲しませたことは知っています。たとえ後悔したとしても、7:9 今は喜んでいます。あなたがたがただ悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたが悲しんだのは神の御心に適ったことなので、わたしたちからは何の害も受けずに済みました。

Ⅱコリ 1:12 (新共同訳)

1:12 わたしたちは世の中で、とりわけあなたがたに対して、人間の知恵によってではなく、神から受けた純真と誠実によって、神の恵みの下に行動してきました。このことは、良心も証しするところで、わたしたちの誇りです。

7:8 そこで、たとい、あの手紙であなたがたを悲しませたとしても、わたしはそれを悔いていない。あの手紙がしばらくの間ではあるが、あなたがたを悲しませたのを見て悔いたとしても、7:9 今は喜んでいいる。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって、わたしたちからはなんの損害も受けなかったのである。

Ⅱコリ 1:12 (口語訳)

1:12 さて、わたしたちがこの世で、ことにあなたがたに対し、人間の知恵によってではなく神の恵みによって、神の神聖と真実とによって行動してきたことは、実にわたしたちの誇りであって、良心のあかしするところである。

金曜日 8月28日 さらなる研究

参考資料として、『患難から栄光へ』第31章「患難と栄光」を読んでください。

「最も大きな悲しみを背負って来た人たちは、しばしばほかの人に最も大きな慰めをもたらし、行く先々で太陽の光をもたらす。そのような人たちは、苦難によって練られ、優しさを身につけてきた。彼らは困難に襲われても神への信頼を失わず、私たちを守ってくださる神の愛にしがみついた。そのような人たちは、神の優しい配慮の生きた証である」(エレン・ホワイト『神の驚くべき恵み』122 ページ、英文)。

「献身したクリスチャンの生活は、常に光と慰めと平安を放っている。それは、純粋さ、思いやり、純真、有用性によって特徴づけられ、影響力を聖める〔キリストの〕無私の愛によって支配されている。その生活にはキリストが満ちあふれ、彼が行く先々に光の跡を残す」(同上)

【参考】—Ellen G. White, *God's Amazing Grace*, p. 122.

“Those who have borne the greatest sorrows are frequently the ones who carry the greatest comfort to others, bringing sunshine wherever they go. Such ones have been chastened and sweetened by their afflictions; they did not lose confidence in God when trouble assailed them, but clung closer to His protecting love. Such ones are living proof of the tender care of God.”

“A consecrated Christian life is ever shedding light and comfort and peace. It is characterized by purity, tact, simplicity, and usefulness. It is controlled by that unselfish love that sanctifies the influence. It is full of Christ, and leaves a track of light wherever its possessor may go.”

「使徒パウロは、教会内の誤りを譴責する必要があると感じたが、その際に自制心を失うことはなかった。彼は自分の行動の理由を懸命に説明している。彼は、自分が過ちを犯した者の友であるという印象を残すために、どれほど注意深く行動したことだろう。パウロは、彼らを苦しめることが自分自身も苦しむことなのだと彼らに理解させ、自分の利益が彼らの利益と一致しているという印象を彼らの心に残したのである」(『SDA 聖書注解』第6巻1094ページ、英文)。

【参考】 — Ellen G. White Comments, The SDA Bible Commentary, vol. 6, p. 1094.

“The apostle Paul found it necessary to reprove wrong in the church, but he did not lose his self-control in reproving error. He anxiously explains the reason of his action. How carefully he wrought so as to leave the impression that he was a friend of the erring! He made them understand that it cost him pain to give them pain. He left the impression upon their minds that his interest was identified with theirs.”

話し合いのための質問

- ① IIコリント 2:1～14 でパウロは、宣教の働きにおける自分の誠実さを主張しています。なぜこの働きの資質がそれほど重要なのですか。
- ② パウロが計画を変更したという事実は、クリスチャンの宣教における柔軟性の必要性について、どんなことを教えてください。なぜ必要に応じて変化を受け入れる姿勢を持つことが重要なのでしょうか。
- ③ 宣教の働きにおいて、パウロは苦悩や不安に直面しました。これは、教会の指導者もほかの人々と同様、苦悩にさらされる人間であるということを明白に示しています。彼らの働きを楽にするために、教会員はどんなことができるのでしょうか。
- ④ パウロは、キリストにおける勝利(IIコリ 2:14)について述べる直前に、自分の不安(同 2:13)に言及しています。彼はどのように自分の弱さと強さを同時に語ることができたのでしょうか。私たちはどうでしょうか。

66

【参考】 副読本にある《概要》を転載します。

前述の通り、パウロはあまりにも圧倒的な苦しみを耐え、それを「耐えられないほど」と表現しました(IIコリ1:8)。それでもパウロは、神が自分の力と励ましの源であると確信し続けました。この神からの慰めによって力を得た彼は、他者への励ましの器となりました。教会の信者のための苦しみをも厭わず、パウロは彼らへの愛を示していきます。

パウロのコリント人への深い愛情は、彼らのために困難に耐える覚悟と、誠実で率直な仕え方にあらわれていました。コリントの教会への愛は、旅の計画を変えたことにもあらわれていました。当初、彼はテモテを送った直後にコリントを訪れるつもりでしたが、テモテからの悪い報告を受けて計画を変更しました。また痛ましい訪問の代わりに、パウロは深い愛を伝える心のこもった涙の手紙を送りました。この「厳しい手紙」はテトスによって伝えられ、コリント人を悔い改めに導きました。パウロは、自分に対する彼らの態度や自分の意図を誤解してことについて、彼らを赦しました。これは

教会が罪の事例に対処する際に、従うべき模範となります。教会の規律は、愛と祈り、そして違反者を許す意思をもって行われ、回復を求める必要があります。

事態はハッピーエンドを迎えましたが、パウロは、自分の勝利が彼の努力の結果ではないと確信しています。彼は、すべての勝利が人間の努力ではなく、神からもたらされると強調しています。これは、人生のあらゆることに当てはまります。

Ⅱコリ 2:1～14 （新共同訳）

2:1 そこでわたしは、そちらに行くことで再びあなたがたを悲しませるようなことはすまい、と決心しました。

2:2 もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませる人以外のいっただれが、わたしを喜ばせてくれるでしょう。

2:3 あのようなことを書いたのは、そちらに行って、喜ばせてもらえるはずの人たちから悲しい思いをさせられなくなかったからです。わたしの喜びはあなたがたすべての喜びでもあると、あなたがた一同について確信しているからです。

2:4 わたしは、悩みと愁いに満ちた心で、涙ながらに手紙を書きました。あなたがたを悲しませるためではなく、わたしがあなたがたに対してあふれるほど抱いている愛を知ってもらうためでした。

2:5 悲しみの原因となった人がいれば、その人はわたしを悲しませたのではなく、大げさな表現は控えますが、あなたがたすべてをある程度悲しませたのです。

2:6 その人には、多数の者から受けたあの罰で十分です。

2:7 むしろ、あなたがたは、その人が悲しみに打ちのめされてしまわないように、赦して、力づけるべきです。

2:8 そこで、ぜひともその人を愛するようになしてください。

2:9 わたしが前に手紙を書いたのも、あなたがたが万事について従順であるかどうかを試すためでした。

2:10 あなたがたが何かのことで赦す相手は、わたしも赦します。わたしが何か

Ⅱコリ 2:1～14 （口語訳）

2:1 そこでわたしは、あなたがたの所に再び悲しみをもって行くことはすまいと、決心したのである。

2:2 もしあなたがたを悲しませるとすれば、わたしが悲しませているその人以外に、だれがわたしを喜ばせてくれるのか。

2:3 このような事を書いたのは、わたしが行く時、わたしを喜ばせてくれるはずの人々から、悲しい思いをさせられたくないためである。わたし自身の喜びはあなたがた全体の喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからである。

2:4 わたしは大きな患難と心の憂いの中から、多くの涙をもってあなたがたに書きおくれた。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、あなたがたに対してあふれるばかりにいただいているわたしの愛を、知ってもらうためであった。

2:5 しかし、もしだれかが人を悲しませたとすれば、それはわたしを悲しませたのではなく、控え目に言うが、ある程度、あなたがた一同を悲しませたのである。

2:6 その人にとっては、多数の者から受けたあの処罰でもう十分なのだから、

2:7 あなたがたはむしろ彼をゆるし、また慰めてやるべきである。そうしないと、その人はますます深い悲しみに沈むかも知れない。

2:8 そこでわたしは、彼に対して愛を示すように、あなたがたに勧める。

2:9 わたしが書きおくれたのも、あなたがたがすべての事について従順であるかどうかを、ためすためにほかになかった。

2:10 もしあなたがたが、何かのことにいて人をゆるすなら、わたしもまたゆる

のことで人を赦したとすれば、それは、キリストの前であなたがたのために赦したのです。

2:11 わたしたちがそうするのは、サタンにつけ込まれないためです。サタンのやり口は心得ているからです。

2:12 わたしは、キリストの福音を伝えるためにトロアスに行ったとき、主によってわたしのために門が開かれていたが、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

2:14 神に感謝します。神は、わたしたちをいつもキリストの勝利の行進に連れさせ、わたしたちを通じて至るところに、キリストを知るといふ知識の香りを漂わせてくださいます。

Ⅱコリ 1:8 (新共同訳)

1:8 兄弟たち、アジア州でわたしたちが被った苦難について、ぜひ知っていてほしい。わたしたちは耐えられないほどひどく圧迫されて、生きる望みさえ失ってしまいました。

そう。そして、もしわたしが何かのことでゆるしたとすれば、それは、あなたがたのためにキリストのみまえでゆるしたのである。

2:11 そうするのは、サタンに欺かれることのないためである。わたしたちは、彼の策略を知らないわけではない。

2:12 さて、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、わたしのために主の門が開かれたにもかかわらず、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、わたしは気が気でなく、人々に別れて、マケドニアに出かけて行った。

2:14 しかるに、神は感謝すべきかな。神はいつもわたしたちをキリストの凱旋に伴い行き、わたしたちをとおしてキリストを知る知識のかおりを、至る所に放って下さるのである。

Ⅱコリ 1:8 (口語訳)

1:8 兄弟たちよ。わたしたちがアジアで会った患難を、知らずにいてもらいたくない。わたしたちは極度に、耐えられないほど圧迫されて、生きる望みをさえ失ってしまい、